

# 北九州市立図書館の運営に関する評価

## I 基本目標

- 1 これまでの図書館サービス(図書・資料の閲覧・貸出、レファレンス機能、情報サービスなど)をさらに充実させる。
- 2 市民が抱える課題の解決を支援する。
- 3 子どもの読書活動を積極的に推進していく。

## II 令和2年度事業目標

- 1 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
- 2 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
- 3 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。

## III 目標に対する達成状況と総合評価

1. 図書館サービスのさらなる充実を目的に、障害者サービス・多文化サービスを強化する。
  - 中央図書館において、障害者向けのLLブック、朗読CDなどを充実させるとともに、郵送貸出対象となる視覚障害の等級条件を緩和するなど、障害者サービスを強化した。
  - 中央図書館では「やさしい日本語」及び外国語の利用案内リーフレットの配布、「やさしい日本語」で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組みを継続して行った。
  - 以上のことから障害者サービス・多文化サービスについて一定の取組みを継続出来た。
2. 市民の課題解決支援を目的に、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点からのサービスを充実する。
  - 市内の各図書館において、「健康・医療」「福祉・介護・年金」「仕事を進める上での能力アップ」の視点での本の展示を行うとともに医療情報や健康に関するコーナーを設置した。また、令和2年度は新型コロナウイルスに関する本や免疫力を上げる本など市民の関心の高い新刊本を積極的に購入した。
  - 複数の地区館で感染対策のため身体的接触がないように工夫して健康促進講座「セルフリンパマッサージ」等の講座を実施した。
  - コロナ禍により行事の開催回数は減少したものの、課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実にも積極的に取り組んだ。
3. 子どもの読書活動推進を目的に、子ども図書館を拠点として、学校関係者の人材育成支援・子ども司書などの養成に取り組む。
  - 図書・資料の学校への「団体貸出」や学校における読書活動や調べ学習の推進を図るための「学校貸出図書セット」の積極的な利用を呼びかけた。
  - なかでも「学校貸出図書セット」については、貸出件数が3割増えるなど、大変順調であった。
  - また、秋に「子どもの図書館講座」を行ったところ、定員を超える応募があるなど、子どもが図書館への関心を高めるイベントを実施することが出来た。

#### まとめ

- 令和2年度は前年度から引続き、6月23日まで臨時休館となり、再開後も翌年3月31日までの間は1時間の開館時間短縮を行った。
- しかし、臨時休館中も予約本の有料宅配サービスや臨時窓口での予約本の受け渡しを実施するなど一部の図書館サービスを継続した。
- 図書館再開後は、感染対策を徹底しながらイベントや講座を実施していたが、再度の緊急事態宣言の発出を受け、令和3年1月19日から3月31日までの行事を中止せざるを得なかったことは残念であった。
- このような状況の中、施策評価では50項目(うち1項目は平成30年度完了事業のため、令和2年度評価対象事業は49項目)のうち「大変順調である」のA評価が5項目(前年度19項目)、「順調である」のB評価が37項目(前年度29項目)、「やや遅れている」のC評価が3項目(前年度1項目)「評価しない」が4項目(前年度0項目)となった。新型コロナ感染拡大の影響を受け、A評価は大幅に減少したものの、全ての図書館が目標の達成に向けて努力した結果、概ね順調な図書館運営を行うことが出来た。

#### 外部評価

### IV 参考資料

#### 【利用状況の変化】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸出者数	1,029,447人	909,340人	610,336人
貸出冊数	3,913,822冊	3,423,930冊	2,427,889冊
来館者数	2,458,211人	2,276,653人	1,077,811人
レファレンス件数	38,852件	32,737件	20,648件
人口1人当たりの貸出冊数	4.11冊	3.61冊	2.58冊

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和2年2月28日から5月31日まで、6月3日から6月23日まで臨時休館を行い、令和2年6月24日から令和3年3月31日まで再開後の開館時間短縮を行った。

#### 【アンケートによる利用者満足度の状況(「非常に満足」・「満足」の割合)】

①本の品ぞろえ	87.7%
②本の探しやすさ	91.7%
③調べ物の役立ちさ	82.6%
④展示・行事の内容	79.4%
⑤対応の親切さ	92.6%
⑥説明の分かりやすさ	87.6%
①～⑥の合計	86.9%

北九州市立図書館では、「これからの図書館サービスのあり方」の中に示された5つの視点に立った取り組みを行っています。  
その具体的施策50項目の取組状況について、下記の基準を設けて評価を行います。

<評価の基準>

A	新たな取り組みが行われたり数値が伸びたりするなど、大変順調なもの。
B	継続的・安定的に取り組みが行われたり、数値が一定水準で維持されたりするなど、順調なもの。
C	予定通りに進まなかったり、数値が下降傾向にあったりするなど、やや遅れているもの。
D	全く進展がなかったり、取り組みが行われていなかったりするなど、遅れているもの。
-	評価しない。

※( )内は、前年度(令和元年度)の評価

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
1 多様な施設とつながる図書館	(1) 文学館などの文化施設との連携	①(新)文化施設の情報発信	文学館、美術館、松本清張記念館などの文化施設への来館のきっかけづくりのため、文化施設の企画展情報を発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館では、文学館のリニューアルオープンや火野葦平展に関連し、北九州市ゆかりの作家の本の企画展示を行った。</li> <li>●小倉南図書館では、松本清張記念館と連携し松本清張に関する文学講座や松本清張ドラマの上映会を開催した。</li> <li>●八幡図書館では、北九州芸術劇場と連携した連続戯曲講座を開催した。</li> <li>●子ども図書館では、文学館の企画展で展示した黒田征太郎氏の絵画を、乳幼児閲覧室に掲示した。</li> <li>●他にも、各館において、自然史・歴史博物館、美術館、文学館、漫画ミュージアムなど各種文化施設の広報物を図書館内に掲示したりするなど、施設の催事に連動した図書資料の展示を行ったりした。</li> <li>●コロナ禍の中、文化施設でも休館やイベントの延期・中止などがあり、積極的に集客を図ることができない状況下ではあったが、図書館では継続して多くの文化施設と連携し、情報の収集や発信に努めたため、順調と判断した。</li> </ul>	B (A)
		②(新)最寄りの文化施設の情報発信	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館では、文学館が発行する文学館文庫や文学館主催文学賞の受賞作品収集や松本清張記念館、美術館分館、芸術劇場などの発行する出版物の収集を行った。</li> <li>●子ども図書館では、松本清張記念館のカフェのメニューを館内に設置するとともに、記念館のカフェでは子ども図書館のノベルティを配付してもらうことで、相互のPRを行った。</li> <li>●若松図書館では河伯洞、八幡図書館では響ホール、八幡西図書館ではひびしんホールやこども館、戸畑図書館では美術館、八幡南分館では長崎街道木屋瀬宿記念館など、各館で最寄りの施設の広報物を図書館内に設置したり、施設の催事に連動して図書館行事を行ったりした。</li> <li>●これらにより、最寄りの文化施設と連携した情報発信を継続して行うことができたため、順調と判断した。</li> </ul>	B (A)

内部評価  
B  
(B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		③(新)地元ゆかりの作家作品の充実	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館の特設文庫「松本清張文庫」、子ども図書館の「本市ゆかりの児童文学者の顕彰コーナー」、小倉南図書館の「藤田博士顕彰コーナー」、若松図書館の「火野葦平コーナー」、八幡図書館の「みずかみかずよコーナー」、戸畑図書館の「宗左近記念室」など、各館において、地元出身作家などのコーナーを設け、関連資料の展示を引き続き行った。</li> <li>●中央図書館の北九州資料室を中心に、利用の多い松本清張作品の買替えや中村哲等最近注目が集まっている本市ゆかりの人物の著作を購入するなど各館において福岡県・北九州市ゆかりの作家の著作を積極的に購入し、充実を図っている。</li> <li>●はじめての絵本事業に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し、配布している。</li> <li>●これらにより、地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰が引き続き図られていることから、順調と判断した。</li> </ul>	B (B)
		④(新)文化施設とのネットワークの構築	文化施設とのネットワークの構築を図るため、中央図書館も文化施設の館長会議に参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各施設とは、個別に連携を行い、美術館のイベントに合わせた関連図書の展示、文学館の情報提供、子どもの館での出張読み聞かせ(アウトリーチ)などを実施した。</li> </ul>	B (B)
(2)他施設との連携		⑤大学図書館との連携	大学図書館とのネットワークの構築を図るため、 ・北九州市立大学や九州国際大学の図書館との連携の充実 ・市内にある他の大学図書館との連携の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成14年8月に北九州市立大学と、平成14年9月に九州国際大学と、それぞれ連携協定を締結し、継続的に相互利用を進めている。</li> <li>●令和2年度は、新たに他の大学との連携協定締結には至っていないが、福岡県のネットワークを利用して図書の相互貸借を行った。</li> </ul>	C (B)
		⑥大学との連携	大学図書館との連携に止まらず、大学教員などを講師に招いて、講演会や講座を積極的に開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館及び小倉南図書館において、九州大谷短期大学や九州女子大学からの図書館実習を受け入れるなど、司書資格取得を目指す学生を積極的にバックアップした。</li> <li>●中央図書館及び子ども図書館では、九州国際大学の学生企画である「うちどく(家読)推進プロジェクト」のフリーペーパーの作成に協力し、お勧め本の紹介記事を提供した。</li> <li>●八幡図書館では、北九州市立大学の学生企画「子育てマップ」作成や九州国際大学の学生企画「子育てコンサート」実施に協力した。</li> <li>●コロナ禍で大学も通常の運営ができないような状況下であり、図書館との連携も困難な面があったが、学生企画への協力を行うなど、できる範囲で連携に努めることができたため、順調と判断した。</li> </ul>	B (A)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価																		
		⑦ネットワーク(連携)機能の充実	中央図書館が地区図書館や分館へ助言や指導を行い、市立図書館のネットワークを充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全ての図書館の館長が参加する館長会議を毎月開催することは出来なかった。</li> <li>●一方、事件・事故・災害などの危機管理や市民対応では、中央図書館から地区館への助言等を迅速に行うとともに、情報を全館で共有してネットワークの強化に努めた。</li> <li>●地区図書館の選書担当者が参加して毎週開催する選書会議の場を活用して、新刊図書や推薦図書に関する情報はじめ図書館サービスに関する様々な情報を全ての図書館と共有した。</li> <li>●子ども図書館では、「子ども読書プラン」の改訂に当たり、地区図書館へ適宜、検討状況を共有し、協力を求めた。</li> <li>●これらにより、中央図書館を中心とした本市の図書館網をより強化することができたため、大変順調と判断した。</li> </ul>	A (A)																		
	(3)身近なネットワークの構築	⑧(新)市立図書館における観光情報などの提供	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若松図書館ではグリーンパークや高塔山のイベントのポスター・パンフレットの掲示、戸畑図書館では戸畑区等の無料情報誌(歴史探訪等)コーナーの設置を行うなど、各館において市内観光情報や地域情報などに関するチラシ・パンフレットの掲示やイベントに関連した図書の企画展示を行った。</li> <li>●コロナ禍の中、観光産業自体が縮小傾向にあったが、各図書館において継続して情報の収集・提供を行い市の魅力発信に努めたため、順調と判断した。</li> </ul>	B (B)																		
		⑨ひまわり文庫の充実	市民センターなどに設置した、ひまわり文庫の蔵書構成などの充実	<p>【ひまわり文庫の状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度末</th> <th>R2年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>129か所</td> <td>128か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>67,312冊</td> <td>73,751冊</td> </tr> <tr> <td>1箇所あたり配本数</td> <td>522冊</td> <td>576冊</td> </tr> <tr> <td>年間貸出者数</td> <td>24,538人</td> <td>23,639人</td> </tr> <tr> <td>年間貸出冊数</td> <td>50,608冊</td> <td>55,490冊</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>●令和2年度末に西部勤労婦人センターが廃止され、1か所減となった。(令和3年6月に八幡東生涯学習センター尾倉分館に再設置)</li> <li>●市民センター等担当者との情報交換、利用者からのリクエストや貸出し傾向等によってニーズを把握し、利用が見込まれる図書の購入・配本に努めた。</li> <li>●他館からの管理換えや寄贈図書の受入れなどにより、図書の再活用とひまわり文庫蔵書の充実に努めた。</li> <li>●貸出人数は前年度より減少、冊数は増加した。</li> <li>●コロナ禍による図書館の休館中も、開館していた市民センター等ではひまわり文庫が利用でき、市民が身近に図書館の本を借りることができる場として強みが発揮された。配本の充実にも努めた結果、貸出者数は減少したが、貸出冊数は1割程度増加したため、大変順調と判断した。</li> </ul>		R元年度末	R2年度末	設置施設	129か所	128か所	配本数	67,312冊	73,751冊	1箇所あたり配本数	522冊	576冊	年間貸出者数	24,538人	23,639人	年間貸出冊数	50,608冊	55,490冊	A (B)
	R元年度末	R2年度末																					
設置施設	129か所	128か所																					
配本数	67,312冊	73,751冊																					
1箇所あたり配本数	522冊	576冊																					
年間貸出者数	24,538人	23,639人																					
年間貸出冊数	50,608冊	55,490冊																					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価									
		⑩(新)貸出 文庫登録施 設数の増加	市民が気軽に本に接 する機会を増やすた め、幼稚園や保育所 などの子育て関連施 設や病院、高齢者施 設などで利用されて いる貸出文庫の利用 施設を増加	<b>【貸出文庫の状況】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度末</th> <th>R2年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置施設</td> <td>92か所</td> <td>91か所</td> </tr> <tr> <td>配本数</td> <td>22,240冊</td> <td>23,750冊</td> </tr> </tbody> </table> <p>●令和2年度は、2施設で新設したが、3施設が廃止され、前年度より1施設減となった。 ●施設数は減ったが、新規設置のニーズには対応しており、保育所・幼稚園・放課後児童クラブなど子育て関連施設を中心に安定した利用がなされ、配本数は増加したため、順調と判断した。</p>		R元年度末	R2年度末	設置施設	92か所	91か所	配本数	22,240冊	23,750冊	B (B)
	R元年度末	R2年度末												
設置施設	92か所	91か所												
配本数	22,240冊	23,750冊												
<b>【内部評価の考え方】</b> 新型コロナウイルス感染拡大のため、文化施設でも臨時休館やイベントが延期・中止となる中、図書館では継続して多くの文化施設と連携し、情報の収集や発信に努めた。大学との連携では、司書資格を目指す学生を受入れ積極的にバックアップした。また、中央図書館及び子ども図書館では、九州国際大学の学生企画「うちどく(家読)プロジェクト」のフリーペーパー作成に協力し、若者へのおすすめ本を紹介するなど新しい取り組みも行った。また、図書館休館中も開館していた市民センターではひまわり文庫の貸出し実績が上がり、コロナ禍での強みが発揮されたことは新たな発見であった。これらのことから、順調であると判断した。														
<b>【外部評価】</b>														

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
2 市民の課題解決を支援する図書館  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">内部評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;">B (B)</div>	(1)レファレンスの強化	①相談内容のデータベース化	これまで長年積み上げてきたレファレンスの事例に、多くの市民が接することができるようにするため、相談内容とその回答をデータベース化し、ホームページで公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館参考資料室を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。</li> <li>●登録件数:令和元年 237件、令和2年 197件。(平成30年以降毎年、新規登録件数多数や登録事例の被参照件数多数等により国立国会図書館から表彰を受けている。)</li> <li>●登録したレファレンスの内容については、市立図書館ホームページにレファレンス協同データベースのリンクを貼ることにより、随時、最新の内容にアクセスできるようにしている。</li> <li>●これらにより、レファレンス事例の積み重ねに努めるとともに、インターネットから容易にレファレンス事例にアクセス可能な状態を作っていることから、順調と判断した。</li> </ul>	B (B)
		②レファレンス担当職員の能力向上	図書館業務の基本となるレファレンスを担当する職員の能力向上を図るため、体系的な研修を計画、実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍により、集合研修については外部研修への参加、独自研修実施とも困難な面があったが、福岡県立図書館主催のレファレンス研修会には複数館から出席した。また、中央図書館では、外部講師を招いてレファレンス研修を行った。</li> <li>●国立国会図書館や文部科学省等が主催する研修会等でオンライン(ウェブ会議方式や動画配信)で実施されるものについては、移動を伴わずに受講することが可能であり、各館の職員が視聴した。</li> <li>●研修で学んだことを活かして、子ども図書館では子どもが調べものをする際の手助けとなる「調べもののおてつだい」をホームページに掲載し、小倉南図書館では昨年度に続き、項目を増やすなどパスファインダーの整備を進め、八幡図書館では郷土資料の調査に役立つ冊子「郷土資料案内」の改訂を行った。</li> <li>●これらのことから、困難な状況下にあっても様々な機会を捉えてレファレンス担当職員が研鑽に励み、実務にも活かしていることから、順調と判断した。</li> </ul>	B (B)
		③レファレンス用図書・資料の充実	多様化・複雑化する市民ニーズに適切に対応するため、レファレンス用図書・資料を充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各館において、各種レファレンス用資料(事典・辞書類、図鑑、統計類など)の新規購入や新版への更新、行政資料の寄贈受入れなどを行った。</li> <li>●このことにより、レファレンス用資料の充実に努めていることから順調と判断した。</li> </ul>	B (B)

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
	(2) 特色ある図書館づくり	④(新)課題解決支援のための分野別配架と講演会などの実施	<p>・標準的な配架法である「日本十進分類法」を基礎にしながら、市民が抱えている課題に対応するために、テーマごとに図書・資料を並べたり、特設コーナーを設けるなど、市民が図書・資料を探しやすいような分野別配架の実施</p> <p>・市民のニーズに応じて、「健康・医療」、「福祉・介護・年金」、「子育て・教育」など、分野別に体系立てた講演会や講座などを実施し、市民の課題解決を支援</p>	<p>●子ども図書館において、引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和学習コーナー</li> <li>・読書感想文特設コーナー</li> <li>・季節ごとの企画展示コーナー</li> <li>・地元出身作家コーナー</li> <li>・世界の絵本と地図のコーナー</li> </ul> <p>など、工夫をこらしたコーナーを設け、子どもたちの課題解決支援を行うことができた。</p> <p>●子ども図書館及び各地区館・分館に子育て支援コーナーを設置し、妊娠出産や育児・子どもの遊びなど関連本をまとめて配架し、利用しやすい環境を整えている。</p> <p>●中央図書館でガン情報コーナーを設置する等各館で医療情報や健康に関するコーナーを設置している。令和2年度は新型コロナウイルスに関する本や免疫力を上げる本など市民の関心の高い新刊本を積極的に購入した。</p> <p>●その他、各館において、市民の課題解決に役立つ特定のテーマ(健康・医療、高齢者向け、認知症、ビジネス支援など)の資料を集めたコーナーの設置や館内展示に取り組んだ。</p> <p>●若松図書館や戸畑図書館では感染対策のため身体的接触がないように工夫して健康促進に役立つ講座(リンパマッサージ、リトミック)を開催した。</p> <p>●コロナ禍により企画した講座を中止せざるを得ないことが多い状況であったが、課題解決支援のための図書の分野別配架や資料の充実などに積極的に取り組むことができたため、順調と判断した。</p>	B (B)
		⑤(新)地域の特性などを活かした図書館づくり	<p>特色のある図書館づくりのため、各図書館が地域の特性や地域住民のニーズに応じた図書・資料の配架や講演会などを重点的に実施</p>	<p>●門司図書館、若松図書館では、高齢者が多い地域のため、高齢者が本を選びやすいよう配慮した配架やシニアコーナーの設置を行った。</p> <p>●大里分館、曾根分館、八幡西図書館では、子育て世代や児童の利用が多いため、子育て支援関連本や子ども向けの学習漫画やクイズ本などの収集を充実した。</p> <p>●その他、八幡図書館では製鉄所・世界遺産関連、戸畑図書館では1960年代の戸畑区婦人協議会による環境活動、曾根分館では地域に多い農業従事者向けの園芸関係の本など、周辺の歴史や産業に関連した図書の充実やコーナー設置を行っている。</p> <p>●島郷分館では、併設の市民センタークラブ利用者に向けた趣味コーナー(パソコン、ヨガ、絵画、写真)を設置している。</p> <p>●八幡図書館では参加者を少人数に絞って歴史講座を開催した。</p> <p>●コロナ禍により全体的に講演会や講座の開催は困難であったが、各館において、地域の特性を活かした資料収集や提供を継続的に進めることができたため、順調と判断した。</p>	B (A)



視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		⑥(新)郷土資料の充実	地域の歴史や文化を次世代に伝えるため、地域の郷土資料を充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども図書館が実施する「はじめての絵本事業」に、引き続き地元出身作家の絵本「あーそーぼ」を選定し配布した。</li> <li>●各図書館において、購入及び寄贈により郷土に関する図書資料の受入れを行った。</li> <li>●八幡図書館で八幡製鐵所に関する資料の寄贈受入を行うなど、各館の所在区の特徴を反映した資料の収集に努めた。</li> <li>●子ども図書館の本市の産業や取り組みを紹介する「ふるさと発見コーナー」、八幡図書館の八幡製鐵所関連コーナーなど、各館において、郷土の特色や地元ゆかりの作家などを紹介する特設コーナーを引き続き設置し充実に努めた。</li> <li>●これらにより、郷土資料の収集を着実に行うとともに、市民に郷土の魅力を紹介する取り組みを継続的に進めていることから、順調と判断した。</li> </ul>	B (B)
		最寄りの文化施設の情報発信【再掲】(視点1②)	各図書館において最寄りの文化施設の図録や資料を設置するなど、文化施設と連携した情報発信		
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展時の開催		
		市立図書館における観光情報などの提供【再掲】(視点1⑧)	市民と観光客を対象にした、北九州市の魅力発信を行うため、 ・中央図書館では全市の観光情報を提供 ・地区図書館では周辺地域の観光情報や地域情報を提供		

【内部評価の考え方】

コロナ禍では対面研修の参加は困難であったが、これまで参加が難しかった国立国会図書館や文部科学省が主催するオンラインでのレファレンス研修に積極的に参加した。また、研修の成果を活かし、子ども図書館ではHP掲載の「調べもののおてつだい」を充実させ、小倉南図書館ではパスファインダーの整備を進めるなど、職員の能力向上に努めた。全体的に講演会や講座の開催が困難であったが、課題解決支援や地域住民のニーズに応じた資料収集には引き続き積極的に取り組んだ。これらのことから、順調であると判断した。

【外部評価】

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館	(1) 子どもの読書活動の推進	①(新)子ども図書館の整備	北九州市子ども読書活動推進条例で定められた、子どもの読書活動の推進拠点となる「子ども図書館」を整備し、子ども図書館にふさわしい図書・資料を充実	●子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館の整備は、平成30年12月22日完了。	-
		②(新)子ども図書館における子育て・家庭教育支援用などの図書・資料の充実	子ども向けの絵本や図書・資料のみでなく、大人も利用できる、子育てや家庭教育支援用の図書・資料の充実	●子ども図書館の2Fに児童図書研究室を設け、引き続き大人向けの図書を収集するなど、家庭教育支援用の図書・資料の充実を図ることができたため、順調と判断した。 ※令和2年度末蔵書数5,538冊(令和元年度末:5,520冊)	B (A)
		③(新)「はじめての絵本」事業の実施	出生前の早い時期から子どもの読書に関心をもってもらうため、母子健康手帳の交付時に絵本を配布する「はじめての絵本」事業を実施	●出生前の早い時期から子どもの読書に関心を持ってもらうよう、母子健康手帳の交付時に絵本配布を行い、昨年度同様、99%以上の方に配布することができたため、大変順調と判断した。	A (A)
		④絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施	子どもが小さいときから読書に親しめる環境づくりを行うため、絵本の読み聞かせやおはなし会などを実施	●地区図書館及び分館で、新型コロナウイルスの影響により回数は減少したものの、絵本の読み聞かせやおはなし会を実施する(オンラインによる配信を含む)など、読書に親しむ環境づくりを行うことができたため、順調と判断した。 【読み聞かせ・おはなし会実施状況】	B (B)
		⑤(新)図書館における子ども向け相談窓口の充実	子どもたちが調べごとのために図書館へ来た時、気軽に相談できるように、子ども専用のレファレンス窓口を設け、調べ学習などが行いやすい環境を提供	●子ども図書館の受付カウンター2ヶ所にレファレンス窓口を設けるなど、各図書館で子どもの相談に応じる窓口を設け、調べ学習などで気軽に相談できる環境を引き続き提供できたため、順調と判断した。	B (B)
		⑥調べ学習用図書・資料及び「調べ方マニュアル」の充実	小・中学校と連携して、それぞれの児童・生徒に応じた調べ学習用の図書・資料や調べ方マニュアルを充実	●図書館ホームページに、調べ方マニュアルを掲載している。(小学生・中学生向け) ●各図書館で、図書館の利用方法や本の探し方についてのリーフレットやパスファインダーを作成したり、既存の資料で内容を更新したものを、来館した児童生徒に配布したりした。 ●これらにより、調べ学習を支援することができたため、順調と判断した。	B (B)

内部評価

**B**  
**(B)**

	R元年度	R2年度
回数	765回	69回
参加者数	13,586人	1,298人

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価											
		⑦ヤングアダルト向け図書・資料の充実	読書から遠ざかりがちな中・高校生のために、ヤングアダルト向け図書・資料を充実	●子ども図書館では、 ・ホームページに「ヤングアダルト向けのコーナー」を掲載 ・1F閲覧室にヤングアダルトコーナーを設置し、ライトノベルや自己啓発、キャリア形成に役に立つ図書を充実するとともに、各図書館でも、ヤングアダルトコーナーを設置し、同様の取組みを行うなど、ヤングアダルト層を取り込む環境づくりを行うことができたため、順調と判断した。	B (B)											
		⑧家読(うちどく)の推進	家庭教育向上の基礎となる親子のコミュニケーションづくりの手段の一つとして家読を推進するため、推薦図書の情報提供や家読コーナーを設置	●地区図書館、分館において、家読コーナーを設置し、家読に適したおすすめ図書の紹介や展示に取り組んだ。 ●子ども図書館では、保育所・幼稚園、学校に配布した「夏の読書カード」に、「家読にチャレンジ」というページを設け家読の周知に努めた。また、館内の特設コーナーに、読書カード及び発達段階に応じた「おすすめ本」を展示した。 ●これらにより、家読の推進を図ることができたため、順調と判断した。	B (B)											
		⑨(新)地域人材の育成	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施	●子ども図書館では、例年行っている読み聞かせボランティアの人材育成を目的とした講座は、コロナウイルスの影響により実施できなかった。 【講座実施状況】	— (B)											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読み聞かせボランティア養成初級</td> <td>2回・53人</td> <td rowspan="4">中止</td> </tr> <tr> <td>読み聞かせボランティア養成初級</td> <td>1回・17人</td> </tr> <tr> <td>ストーリーテリング</td> <td>1回・13人</td> </tr> <tr> <td>ブックトーク</td> <td>1回・6人</td> </tr> </tbody> </table>			R元年度	R2年度	読み聞かせボランティア養成初級	2回・53人	中止	読み聞かせボランティア養成初級	1回・17人	ストーリーテリング	1回・13人	ブックトーク
	R元年度	R2年度														
読み聞かせボランティア養成初級	2回・53人	中止														
読み聞かせボランティア養成初級	1回・17人															
ストーリーテリング	1回・13人															
ブックトーク	1回・6人															
		⑩(新)図書館職員の育成	地区図書館で、読み聞かせボランティアなどを養成する講座が実施できるような、図書館職員のスキルアップ	●子ども図書館では、福岡県立図書館など主催の研修に職員が参加するなど、読み聞かせ技能などのスキルアップを図ることができたため、順調と判断した。	B (B)											
		⑪(新)地区図書館における区役所や市民センターなどとの連携	図書館職員や読み聞かせボランティアを市民センターや地域の子育てイベントなどに派遣し、子ども読書活動の推進につながる読み聞かせなどを積極的に実施	●地区図書館において、引き続き、区役所との共催イベント、区役所の「親子ふれあいルーム」や市民センターでのイベントなどに、図書館職員や読み聞かせボランティアを派遣し、読み聞かせやおはなし会を行うことができたため、順調と判断した。	B (B)											
		地元ゆかりの作家作品の充実【再掲】(視点1③)	市民と子どもたちのシビックプライドの醸成を図るため、各図書館や新設される子ども図書館での、地元ゆかりの作家や児童文学作家の蔵書の充実、企画展示の開催													

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価												
	(2) 学校における読書活動の支援	⑫学校向け団体貸出の拡充	小・中学校において、学習の一助とするために、図書・資料の学校への貸出を積極的に実施	<p>●学校図書館教育講習会が中止になったため、学校への通知文で「団体貸出等の学校向けサービス」について周知し、積極的な利用を呼びかけた。閉館している期間があり、貸出団体数は減ったものの貸出冊数はある程度の実績を残せたので、順調と判断した。</p> <p>【団体貸出利用状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出団体数</td> <td>1,605団体</td> <td>495団体</td> </tr> <tr> <td>貸出冊数</td> <td>9,771冊</td> <td>5,566冊</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	貸出団体数	1,605団体	495団体	貸出冊数	9,771冊	5,566冊	B (A)			
	R元年度	R2年度															
貸出団体数	1,605団体	495団体															
貸出冊数	9,771冊	5,566冊															
		⑬学校貸出図書セットの拡充	学校における読書活動や調べ学習などを推進するため、学年別・テーマ別に選んだ図書・資料を学級文庫や教材として使用する「学校貸出図書セット」を、より学校のニーズにあうように内容を充実	<p>●「学校貸出図書セット」の内容を、学習指導要領改訂に合わせて更新し、希望の多い図書セットを増設した。貸出件数が増えたこともあり、大変順調と判断した。</p> <p>【学校貸出図書セット利用状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出セット数</td> <td>79セット</td> <td>93セット</td> </tr> <tr> <td>貸出件数</td> <td>77件</td> <td>101件</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	貸出セット数	79セット	93セット	貸出件数	77件	101件	A (B)			
	R元年度	R2年度															
貸出セット数	79セット	93セット															
貸出件数	77件	101件															
		⑭図書館司書や読み聞かせボランティアの学校などへの派遣	図書館司書や読み聞かせボランティアなどを学校に派遣し、調べ学習や読み聞かせなど、読書に関する取組みを支援	<p>●新型コロナウイルスの影響で、閉館した時期があったこと、学校等が司書やボランティアの受け入れを控えたことで派遣件数は減った。ただ、派遣を依頼してきた学校や子育て関連施設には、希望に沿ったボランティア等を選び派遣することができたため、特に評価は下げず順調とした。</p> <p>【学校等への派遣件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>司書派遣</td> <td>2館10件</td> <td>1館2件</td> </tr> <tr> <td>ボラ派遣</td> <td>3館82件</td> <td>3館7件</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	司書派遣	2館10件	1館2件	ボラ派遣	3館82件	3館7件	B (B)			
	R元年度	R2年度															
司書派遣	2館10件	1館2件															
ボラ派遣	3館82件	3館7件															
		⑮(新) 学校関係者(教員、学校図書館職員など)の人材育成支援	子どもに一番身近な学校で読書推進活動を行う教員、学校図書館職員などに対して、図書館職員が専門的な研修を支援	<p>●学校図書館教育講習会が中止になったため、司書教員や学校図書館職員に対して、図書館が行っている学校向けサービスについて説明することができなかった。</p> <p>●市立図書館を学習に活用できる教職員を増やすために、学校向けサービスを分かりやすく紹介するリーフレットの作成を行ったので、順調と判断した。</p>	B (A)												
		⑯子ども司書の養成と活用	子どもたちの図書館への関心や読書への意欲を高めるため、 ・図書館で働く司書の仕事を学習する講座を開催し、子ども司書を育成 ・その子ども司書たちが学校で、読書活動推進のリーダー役となることを目指す	<p>●新型コロナウイルスの影響で、令和2年度は、「子ども司書養成講座」を開催することができず、秋のイベントとして「子どもの図書館講座」を行った。参加を募ったところ、定員を超える子どもたちが応募したので、順調と判断した。</p> <p>【子ども司書養成講座参加状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>35人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>16人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>51人</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R2年度は、秋のイベントで行った「子どもの図書館講座」の参加人数。</p>		R元年度	R2年度	小学校	35人	28人	中学校	16人	5人	合計	51人	33人	B (A)
	R元年度	R2年度															
小学校	35人	28人															
中学校	16人	5人															
合計	51人	33人															

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価																		
		①小・中・特別支援学校児童生徒の読書感想文募集の実施	小・中・特別支援学校児童生徒が読書を通して得た喜びや感動を文章表現することで、ものの見方や考え方を深め、より豊かな感性を育むことを目的として、読書感想文募集を実施	<p>●新型コロナウイルスによる夏休みの短縮の影響で、応募総数は3分の1になり、参加学校数も減った。</p> <p>●12月13日(日)の表彰式において、優秀賞の作品を表彰した。当日は、感染対策を施し2部に分けて表彰式を行った。</p> <p>【読書感想文表彰実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募点数</td> <td>33,226点</td> <td>10,179点</td> </tr> <tr> <td>学校数</td> <td>189校</td> <td>142校</td> </tr> <tr> <td>優秀賞</td> <td>28点</td> <td>28点</td> </tr> <tr> <td>優良賞</td> <td>93点</td> <td>93点</td> </tr> <tr> <td>入選</td> <td>2,600点</td> <td>1,095点</td> </tr> </tbody> </table> <p>●予想以上の学校が取り組んだが、出品数が大幅に減ったので、やや遅れとした。</p>		R元年度	R2年度	応募点数	33,226点	10,179点	学校数	189校	142校	優秀賞	28点	28点	優良賞	93点	93点	入選	2,600点	1,095点	C (B)
	R元年度	R2年度																					
応募点数	33,226点	10,179点																					
学校数	189校	142校																					
優秀賞	28点	28点																					
優良賞	93点	93点																					
入選	2,600点	1,095点																					
		②小・中学校との連携	図書館と小・中学校との連携を図るため、図書館だよりの発行や小・中学生の図書館見学・職場体験の実施	<p>●地区図書館、分館において、毎月「図書館だよりの発行」を作成し、近隣の小中学校などに配布した。</p> <p>●小中学生の図書館見学や職場体験を受入れた。図書館の閉館や学校の校外活動自粛などの影響で、見学等で図書館に来館する学校や子育て関連施設が減った。</p> <p>【見学及び職場体験実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見学</td> <td>13館84件4,175人</td> <td>11館62件2,246人</td> </tr> <tr> <td>職場体験</td> <td>9館44件154人</td> <td>2館2件2人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●中央図書館において、展示スペースを学校図書館用に確保し、小中学校の図書委員などが作成した本の紹介などの作品を展示した。</p> <p>●来館する学校の数が減ったものの、厳しい状況の中でも、図書館見学を計画する学校が考えた以上にあったので順調と判断した。</p>		R元年度	R2年度	見学	13館84件4,175人	11館62件2,246人	職場体験	9館44件154人	2館2件2人	B (A)									
	R元年度	R2年度																					
見学	13館84件4,175人	11館62件2,246人																					
職場体験	9館44件154人	2館2件2人																					
<p>【内部評価の考え方】</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、絵本の読み聞かせやおはなし会などの開催件数は大幅に減少したが、オンラインによる配信を実施するなど、新しい取り組みを行った。学習指導要領改定に合わせて「学校貸出図書セット」の内容を更新したところ、コロナ禍においても貸出件数が大幅に増えた。その他、「子ども向け相談窓口の充実」や「調べ学習のための資料の充実」「図書館見学・職場体験」などを感染対策に留意しながら継続して行うことが出来たため順調とした。</p>																							
<p>【外部評価】</p>																							

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
4 誰もが使いやすい、人や情報が交流する図書館	(1) 情報化への対応	①Wi-Fiの整備	スマートフォンなど携帯端末の普及が進んでいるため、図書館のWi-Fi環境を整備	●中央・八幡・八幡西・小倉南図書館に続き、平成30年度に開館した子ども図書館でも公衆無線LANを設置し、安定的に事業を継続したことから、順調と判断した。	B (B)
		②中央図書館、地区図書館、子ども図書館におけるホームページの充実	利用者が見やすく、使いやすいホームページとなるように、 ・子ども図書館の開館にあわせ、ホームページを開設 ・中央図書館や地区図書館のホームページの見直し	●従前のホームページは市のサーバーと外部サーバーを利用したページが混在するなど利用者が使いにくい仕様となっていた。そのため、令和元年11月に外部サーバーを利用した個別ホームページを構築したことで、利用者の見やすさ使いやすさが格段に向上した。令和2年度については、安定的に運用したことから順調と判断した。	B (A)
		③郷土資料のデジタル化への検討	資料のデジタル化に関する情報収集や研修などを行い、郷土資料のデジタル化を検討	●中央図書館では、過年度に、所蔵する郷土資料の一部(門司新報、福岡県布達集、小笠原文庫、古地図、写真など)をデジタル化や民間団体と協力したガラス乾板のデジタル化などを行い、利用者に提供している。 ●令和2年度は、中央図書館で、業務委託による小倉藩関係や戦時資料のデジタル化を行い、自然史歴史博物館による古地図のデジタル化作業への図書館所蔵資料の提供(成果品は、今後博物館と共同利用する予定)を行った。また、小型ブックスキャナーを購入し、職員による資料デジタル化作業も行える環境を整えた。 ●これらのことから、郷土資料のデジタル化について進展が見られたため順調と判断した。	B (C)
(2) ニーズに応じたサービスの提供	④高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実	バリアフリー化や大活字本の充実を図るなど、高齢者を含め、あらゆる人が利用しやすいサービスの充実	●中央図書館において、障害者就労支援施設の協力による障害者サービス研修や、北九州市立点字図書館と共同で読書バリアフリー法に係る研修会を実施した。 ●中央図書館で身体障害者向け郵送貸出の対象者を拡大(視覚障害の等級条件を緩和)し、録音図書の出貸を開始した。 ●中央図書館では、「やさしい日本語」及び外国語の利用案内リーフレットの配布や「やさしい日本語」で書かれた図書資料の収集など、多文化サービスの取組みを継続して行った。 ●各図書館において、高齢者や弱視者も読みやすい資料である「大活字本」収集の充実を図った。 ●中央図書館、小倉南図書館、八幡図書館では、館内に拡大読書機を設置し、各館において拡大鏡やリーディングトラックの館内貸出、コミュニケーションボードの設置等を行っている。 ●各館において、障害のある方に配慮した資料(LLブック、点字絵本、朗読CD、手話付きDVDなど)の収集を行った。 ●各館において、外国語資料の収集、提供を行った。 ●子ども図書館では、寝ころびスペースやベンチなど多様な閲覧スペースを提供した(コロナ禍で一部使用中止)。 ●これらにより、高齢者などあらゆる人が利用しやすい図書館サービスの充実に継続的に努めたため、順調と判断した。	B (A)	

内部評価

**B**  
**(A)**

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価									
		⑤子ども用トイレや授乳室の設置	子どもと一緒に利用しやすい図書館づくりを目指すため、図書館整備にあわせ、子ども用トイレや授乳室を整備	●子ども用トイレや、授乳及びおむつ替えができる赤ちゃんの駅を引続き適切に管理したことから、順調と判断した。	B (B)									
		⑥(新)図書館以外での本の返却	利用者の利便性の向上を図るため、駅など図書館以外で本を返却できるように、返却ボックスを設置	●小倉駅構内及び黒崎駅に隣接するコムシティ入口の2ヶ所に返却ボックスを設置(平成29年7月)し、年末年始を除く毎日、利用に供している。 【返却ボックス利用状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小倉</td> <td>27,593冊</td> <td>18,776冊</td> </tr> <tr> <td>黒崎</td> <td>10,819冊</td> <td>7,034冊</td> </tr> </tbody> </table> ●令和2年度は、前年度に比べ利用数は減ったが、その減少率は、図書館全体の貸出冊数の減少率と同程度である。 ●コロナ禍による臨時休館等の影響で貸出冊数そのものが減少している中で、返却ボックスは一定の利用があり、非来館型のサービスのひとつとして利用者の利便性向上に寄与していることから、順調であると判断した。		R元年度	R2年度	小倉	27,593冊	18,776冊	黒崎	10,819冊	7,034冊	B (A)
	R元年度	R2年度												
小倉	27,593冊	18,776冊												
黒崎	10,819冊	7,034冊												
		⑦CD、DVD資料の貸出とその充実	図書館整備にあわせて、市民から要望のあるCDやDVDなど視聴覚資料の貸出コーナーを設置	●平成24年度以降、各地区館の新設・改修などに併せて、視聴覚資料(CD・DVD)の貸出を行える館を増やしており、令和元年度末現在、中央図書館、子ども図書館、地区館4館(小倉南、八幡、八幡西、戸畑)で館外貸出や館内閲覧の利用に供している。 ●特に子ども図書館では、家族や友だちと一緒に視聴できるスペースの確保も行っている。(令和2年度はコロナ禍で使用中止) ●令和2年度はコロナ禍の中、長時間滞在となりやすいCD・DVDの館内視聴は中止した。また、臨時休館等の影響により館外貸出数も減少した。 ●一方で、CD・DVDの購入は従来通りに行い、資料の充実に努めた。 【CD・DVD貸出所蔵点数(全館計)】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出点数</td> <td>111,181点</td> <td>70,288点</td> </tr> <tr> <td>所蔵点数</td> <td>17,251点</td> <td>17,941点</td> </tr> </tbody> </table> ●視聴覚資料の活用については十分に取組めない状況であったが、資料の充実には着実に取り組むことができたため、順調と判断した。		R元年度	R2年度	貸出点数	111,181点	70,288点	所蔵点数	17,251点	17,941点	B (B)
	R元年度	R2年度												
貸出点数	111,181点	70,288点												
所蔵点数	17,251点	17,941点												

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		⑧学習活動の場、設備、図書・資料などの提供	読書会や郷土史会など、市民の学習活動を推進するため、図書館の施設、設備、図書・資料などを提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館、小倉南図書館等で小中学校児童生徒の作品展示、調べ学習に役立つコーナー設置、資料リスト作成などを行った。</li> <li>●中央図書館、小倉南図書館、八幡図書館、八幡西図書館で司書課程の学生の実習やインタビュー等に協力した。</li> <li>●各館における読書会等への活動支援については、コロナ禍により図書館内での会場の提供ができず中止とした館もあるが、例年に比べ実施回数を減らしたり資料提供のみ行ったりするなど、できる限り継続して取り組んだ。</li> <li>●子ども図書館では、見学等で来館した学校の児童・生徒に対して、図書館利用の学習を行った。調べ学習に使う図書資料に関する相談を受け、資料の紹介や提供を行った。</li> <li>●八幡西図書館で黒崎まちゼミ実行委員会と連携して広報協力や書架特別展示を行った。</li> <li>●コロナ禍により事業規模は縮小せざるを得ない状況であったが、継続して市民の学習活動に対する支援に努めたことから、順調と判断した。</li> </ul>	B (B)
(3)親しみやすい図書館づくり	⑨(新)くつろいで読書ができる環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェテリアを設けるなど、くつろいで読書ができるように図書館の読書環境を整備</li> <li>・カフェテリアが街のにぎわいづくりに寄与するように、イベントなどの企画を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●八幡西・戸畑・中央・小倉南図書館内のカフェの運営を継続した。</li> <li>●しかし、新型コロナウイルス感染拡大による図書館の休館期間中はカフェの休業を余儀なくされた。</li> <li>●子ども図書館内のリフレッシュコーナーについては、図書館再開後も閉鎖中である。</li> <li>●カフェについては、席の削減、換気対策等の感染対策を実施の上、営業を再開し、来館者にくつろげる場所を提供した。</li> <li>●イベントなどの企画は実施することが出来ず、これらのことから、予定通り進まなかったと判断した。</li> </ul>	C (A)	



視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
		⑩(新)市立図書館への来館のきっかけづくりの提供	これまで図書館に来ていない人が来館するきっかけとなるように、図書・資料の配架や開催する講座、イベントなどを見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中央図書館では、コロナ禍による休館(予約本の受取り等限定的サービスのみ提供)中に図書館カードの郵送交付を臨時的に実施し、図書館の新規利用を希望する市民に対応した。</li> <li>●子ども図書館では、読書履歴を記録する「読書通帳」の運用を継続した。</li> <li>●八幡図書館では、近隣の公共施設や店舗と協働したイベント「やはたアートフォレスト」の開催により、図書館を含めた地域の回遊性を高める企画を実施した。</li> <li>●八幡西図書館では北九州フローリスト協同組合と連携し、ロビーでの飾花協力や関連図書の展示を行った。</li> <li>●その他各館において、近隣の自治会との協力により図書館だよりを回覧したり、小中学校・幼稚園・保育園、病院等各種施設に図書館だより、新刊案内、行事チラシ等を設置したりして広報に努めた。</li> <li>●コロナ禍の中、イベントの実施は困難であったが、広報活動に努めるなど、来館を促進する取組みを継続的に行ったため順調と判断した。</li> </ul>	B (A)
<p><b>【内部評価の考え方】</b></p> <p>中央図書館において業務委託により小倉藩や戦時資料のデジタル化を行い、また、小型ブックスキャナーの購入により職員によるデジタル化作業を行う環境が整うなど、郷土資料のデジタル化について進展があった。中央図書館では障害者サービス研修や点字図書館と共同で読書バリアフリー法に係る研修を実施するなど、高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実に向けた取り組みを実施した。他にも録音図書の貸出しの開始や休館中に図書館カードの郵送交付を臨時的に実施するなど図書館の利用者拡大につながる取り組みを行ったため、順調と判断した。</p>					
<p><b>【外部評価】</b></p>					

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価										
5 市民参画型図書館  内部評価  <b>B</b> <b>(A)</b>	(1) ボランティアの育成と活用	①読み聞かせボランティア養成講座の充実	読み聞かせボランティアの専門性を高めるため、ストーリーテリングやブックトークなどの技術を学ぶ講座を実施	●子ども図書館において、子ども図書館では、例年行っている読み聞かせボランティアの人材育成を目的とした講座は、コロナウイルスの影響により実施できなかった。	— (B)										
		②図書館ボランティアの育成	市民が図書館運営の担い手となるように、図書館において館内案内や配架などの図書館業務を行う図書館ボランティアを育成	●例年、中央図書館で図書館ボランティア養成講座を開催し、ほとんどの終了者は、希望の館においてボランティア活動に参加しているが、令和2年度はコロナ禍により養成講座を中止し、ボランティア活動も全館で中止した。 ●ボランティア登録者数(令和3年度に向けた活動継続希望者)は前年度末よりも減少した。 【ボランティア養成状況】	— (B)										
					<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養成講座修了者</td> <td>57人</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ボランティア登録者</td> <td>322人</td> <td>263人</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	養成講座修了者	57人	—	ボランティア登録者	322人	263人	
			R元年度	R2年度											
		養成講座修了者	57人	—											
ボランティア登録者	322人	263人													
			●コロナ禍により年間を通して事業が実施できなかったため、評価判断を行わないものとする。												
③(新)ブックヘルパーの人材育成支援	学校図書館で図書・資料の整理、補修や読み聞かせなどを行うブックヘルパーが活動しやすくなるように、図書館職員が研修を支援するなど、学校における読書活動に協力	●新型コロナウイルスの影響で、ブックヘルパー研修(10月)と、学校における読み聞かせボランティア研修(2月)が中止となった。 ●学校図書館ボランティア等の育成支援を行うことができなかった。 【ブックヘルパー研修実施状況】	— (A)												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募者</td> <td>206人</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>136人</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>		R元年度	R2年度	応募者	206人	中止	参加者	136人	中止			
	R元年度	R2年度													
応募者	206人	中止													
参加者	136人	中止													
		④読み聞かせボランティアバンクの充実	読み聞かせなどを希望する子育て施設や学校に対し、ボランティア情報を迅速かつ的確に提供するため、 ・読み聞かせボランティアバンクの充実 ・地区図書館ごとのボランティアバンクの設立の検討	●地区図書館や学校などで活動する読み聞かせボランティアの情報を、引き続き、各地区図書館と共有するなど、子どもの読書活動推進のためのネットワークの維持を図ることができたため、順調と判断した。	B (A)										
		地域人材の育成【再掲】(視点3⑨)	地域で読み聞かせを積極的に行うため、地域で活動している団体などと協働して、中央図書館や地区図書館で研修を実施												

視点	方向性	具体的取組	事業概要	取組状況	内部評価
	(2) 開かれた図書館づくり	⑤時代に即した図書館づくりを推進するための図書館協議会の充実	多様化する図書館へのニーズに対応し、効率的で効果的なサービスが提供できるように、図書館協議会の充実に努め、時代に即した図書館づくりを推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまで以上に自由闊達な議論が展開される図書館協議会とするため、</li> <li>・北九州市立図書館の状況をより深く知ることを目的に、<u>図書館協議会を地区図書館を会場に開催し、会議終了後には施設見学を実施した。</u></li> <li>●新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度以上の取組みは出来なかったため、現状維持レベルとした。</li> </ul>	B (A)
		⑥運営に関する評価の実施	図書館運営に関する評価を行い、広く公表するとともに、運営の改善を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成25年度から図書館評価制度を導入し、市のホームページに掲載するとともに運営の改善を進めている。</li> <li>●特に、令和2年度は前年度までに図書館協議会や教育委員会会議からいただいた意見を参考に、図書館の基本目標に対する達成状況と総合評価がより分かり易くなるよう、図書館評価のやり方そのものの抜本的な見直しに取り組んだことから、順調と判断した。</li> <li>●一方、図書館運営・評価については、PDCAマネジメントサイクルの結果がわかりづらいとの声もあることから、更なる改善に努めたい。</li> </ul>	B (B)

【内部評価の考え方】

新型コロナウイルス感染拡大により、読み聞かせボランティア養成講座、図書館ボランティア講座、学校図書館で活動するブックヘルパー研修等が中止となった。そのような状況ではあったが、読み聞かせボランティアの情報を子ども図書館と地区図書館で共有するなど、子どもの読書活動推進のためのネットワークの維持を図った。また、図書館協議会では活発な意見交換が行われたため順調と判断した。

【外部評価】